

平成24年3月の解説（府県天気予報）

【3月の天候状況】

上旬は、本州の南岸沿いを通過した低気圧や前線の影響により、北日本から西日本にかけての太平洋側を中心に全国的に曇りや雨または雪の日が多くなりました。特に東日本の太平洋側では、記録的な寡照となり3月上旬としては統計を開始した1961年以降、最も日照時間の少ない値を更新しました。

中旬は、天気は周期的に変化しましたが、旬の前半と終りに冬型の気圧配置となりました。北日本から西日本にかけては、寒気の影響を受けて気温が低く、日本海側を中心に曇りや雨または雪となり、太平洋側を中心に晴れた時期がありました。沖縄・奄美では、寒気や前線の影響により、曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、天気は短い周期で変化しましたが、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となり、北日本と東日本の日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東日本の太平洋側と西日本では晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では移動性高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。また、旬末は日本海から北日本を低気圧が発達しながら通過した影響で、北日本と東日本の太平洋側を中心に、広い範囲で荒れた天気となりました。

月平均気温は、北日本で低くなりました。東・西日本は平年並でしたが、日々の気温では寒暖の変動が大きくなりました。沖縄・奄美では高くなりました。月降水量は、東日本の日本海側でかなり多く、北・東日本の太平洋側、西日本で多くなりました。北日本の日本海側では平年並で、沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、北日本の太平洋側でかなり少なく、北日本の日本海側、東・西日本で少なくなりました。沖縄・奄美では平年並でした。

【3月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より1ポイント高い84%で、明後日予報は例年値より3ポイント高い82%となりました。各地方の適中率では、明日予報は東海地方と九州北部地方で例年値より5ポイント高く、特に九州南部地方では11ポイント高い97%となりました。その他の地方では例年値と同じか例年値程度となりました。明後日予報は例年値より高い地方が多く、関東甲信地方と四国地方及び九州北部地方で5~7ポイント高く、九州南部地方では11ポイント高い94%となりました。

明日の最高気温の予報誤差は例年値と同じか例年値程度となり、全国平均は例年値より0.1 小さい1.7 でした。最低気温の予報誤差も例年値と同じか例年値程度となり、全国平均は例年値より0.1 小さい1.5 でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の天気予報の利用にあたって】

5月の天気の特徴の一つとしては、東西に広がった帯状の高気圧に覆われて晴れる日が続くことですが、時には低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることや、本州の南岸に前線が停滞して曇りや雨の日が続くこともあります。

また、晴れていても、大気の状態が不安定となり、雷や突風、局地的な大雨になることなどもあります。屋外での活動を計画する場合は、天気予報とともに最新の気象情報や注意報、警報の発表状況にも留意し、天気の急変などに備えていただくことが大切です。